

第三十六回 宮島全国短歌大会

三枝 浩樹 先生 選

入賞作品集

広島県知事賞

(六二六)

京都

鯨本 あじもと

ミツ子 こ

少年はほうたる 一匹諸の手にのせてくれたり声をひそめて

日本歌人クラブ賞

(四二六)

福岡

西山 にしやま

博幸 ひろゆき

無人なる外野席より跳ね返るホームランボールはただただ白し

広島県歌人協会賞

(三〇八)

広島

木下 きのした

陽子 ようこ

おとなしき腫瘍なるもの腑のうちに棲まわせて入る冬籠りなり

山口県歌人協会賞

(一八八)

広島

富田 とみた

清人 きよと

子ら二人出でゆきし部屋の壁紙のクマの模様は変えず我が寝る

宮島全国短歌大会実行委員会賞

(二二二)

山口

中村 なかむら

美重子 みえこ

母さんと呼ばれてみたき日もありき花束もらふ母の日が来て

広島県教育委員会賞

(一〇五)

栃木

染宮 そめみや

千美 ちきみ

特養のカタログ夫とながめあう旅のチラシのように弾みて

廿日市市長賞

(二四一)

広島

岩本

幸久

命尽きし母と最後の夜を過ごすふいに寝息の聞こえてこぬか

廿日市市教育委員会賞

(二七一)

山口

宮崎

稔子

おむすびは塩むすび佳し秋さなかときどき母とふたりのランチ

厳島神社賞

(二六〇)

広島

福庭

加恵子

ひとひらの雲なく夕べ黄昏て半月ひとつあそぶ静けさ

宮島観光協会賞

(二一〇)

山口

市岡

恵子

母に添い厳島神社廻廊を花嫁のごとゆるりと歩む

中国新聞社賞

(二五七)

広島

三原

豪之

特攻機に「零戦」ありき尾を曳きて燃えゆく「彗星」の名もありあはれ

NHK広島放送局賞

(二五三)

栃木

池上

吟

戦前の文書詰めたる茶箱二つ検めずして廃棄する夏

中国放送賞

(三三八)

兵庫

山口

泰

手書きには手書きの良さがあるはずだ時代遅れと人は言へども

広島テレビ賞

(三二二三)

広島

河内

圭子

雨垂れの落ちつぐ音は暗闇にあるかなきかのかなしみを置く

広島ホームテレビ賞

(三五五四)

広島

森脇

淑子

憂さと笑み双を宿して能面の洞のまなざし何見つむらむ

テレビ新広島賞

(三八三三)

広島

井山

修子

暗きニュース読みたる眼にひと群の紫ゆれて仏の座咲く

優秀賞

(一一一)

福岡

中村 なかむら

重義 しげよし

抽出しに古りし眼鏡の数多ありそれぞれ異なる記憶を抱きて

優秀賞

(二七)

広島

楯田 たてだ

順子 じゆんこ

高だかと双手をあげて何世紀グリコのランナーキリストに似る

優秀賞

(五九)

群馬

志田 しだ

貴志生 きしお

何気ない仕草が亡妻に似し吾娘に動揺隠して新聞開く

優秀賞

(九二)

広島

松園 まつぞの

和子 かずこ

境内に楚々と咲きたる九輪草あまりに多き父の思い出

優秀賞

(九五)

山口

一宮 このみや

信子 のぶこ

未来つてどっちを向けばいいんだろう楠の木下の木漏れ日に問う

優秀賞

(九七)

広島

増田 ますだ

理恵 りえ

ひとすじの風よに来るハガキから秋の気配と君の優しさ

優秀賞

(一一四)

山口

正木

洋子

所在なく眺むる庭に悠然とアガパンサスの弾けて咲けり

優秀賞

(一六三)

福岡

世良田

静江

このカップ亡夫のために焼いたのに午後の珈琲猫と吾のみ

優秀賞

(二八八)

山口

林

美江子

最先端手術は人間の手にあらず身をゆだねたるロボットにわれら

優秀賞

(二九六)

広島

徳田

義幸

どこか似るソコツシヨウ、コツソシヨウシヨウ意志にて選べるものにはあらず

優秀賞

(二九七)

広島

縄田

妙子

月光が歩みを重くするといふ木下夕爾の詩を思ふ夜の道

優秀賞

(三三九)

山口

佐川紀美江

口きかぬ夫と食後に飲む珈琲おいしかったと声残し立つ

優秀賞

(四五八)

広島

保木本ほきもと

明美あけみ

草を分け自転車押せばドビュツシーのアラベスクの音で露の零れる

優秀賞

(五〇四)

山口

山代屋やましろうや

貞子さだこ

顔半分隠せるマスクに背を押され若き日の服着て街に出る

優秀賞

(五六一)

千葉

吉田よしだ

義宏よしひろ

秋来ぬと蒼天あおぞら高きすじ雲の野辺にいざなうコスモスの花